

平成23年度重点事業に対する倉田委員からの提案に対する対応状況

1. 各圏域ごとに、身障の方(障害区分 6～5を対象)が入居できる、ケアホーム「単身型(または防音居室)」の設置・整備。

○定員は 5～10人で 1～2箇所。

整備・設置・運営などにあたっては、事業所主導でなく、企画の段階から、各地元の入居対象(希望)者の参画が出来るようにし、入居対象者の住みやすい環境を重視する。

【補足(防音居室は単身型と同様な環境で暮らせる)】

とくに一戸建住宅(その他も含め)の場合、隣などの入居者同士の音が聞こえる(様子なども含む)ため、防音居室にすることで、それらを防ぐ(来客者が来ても隣などを気にすることがなくなる)。

また入居者が深夜に帰宅する場合もあると思うので、各居室ごとに外へ自由に出入り可能にしておく(正面玄関から深夜出入りすることで、他の入居者などに迷惑をかけないため。また非常口の確保という意味も含む)

(回答)

1. ケアホームの建設や改修については、重点事業の

- ・ 社会福祉施設等施設整備費補助金 413,000千円
- ・ 障害者就労訓練整備等整備費補助金 75,500千円
- ・ 障害者等グループホーム等建設費補助金 28,000千円

として事業化されております(資料3の5ページ)

また、運営費の補助につきましても

- ・ グループホーム・ケアホーム運営費等補助 117,000千円
- ・ グループホーム等支援事業 80,245千円

として事業化されております。

2. ケアホーム等の整備・設置・運営に関しましては、入居対象者の住みやすい環境づくりを目指すのは事業者としての責務であり、県としても県独自のグループホーム支援ワーカー制度等を活用し、より一層の指導をしていきたい。

3. そのような中、より良い生活環境について検討するため、入居者や家族で構成する委員会のような組織を設置している法人や施設もあります。

しかしながら、最後は設置者の判断であり、身体障害者の方が入居できるケアホーム「単身型」の設置を義務化することは、現在の県の立場では不可能であると考えております。

4. 単身型のケアホームの設置や居室ごとに出入り口を設置するというご提案については、共同生活介護の共同生活住居として、ワンルームタイプなどの複数の住戸を共同生活住居として、利用することは可能であり、現にそのようなグループホームもあります。

2. 各圏域ごとの入所施設・ケアホーム・在宅で暮らす、障害のある人(身障で障害区分6～5を対象)と、ない人との仲間や友達など(異性・同性)作りのきっかけとして、定期的に出会いの場の機会を作る。

【補足】

異性と同性の出会いの場は分ける。(異性の場合、障害のある人同士であれば、出会いの場を行っている団体などは、見かけることはあっても、障害のある人、ない人との出会いの場を行う団体などは、聞いたことがないため、そのような場を作ることでも大切であると考える)

(回答)

障害のある人に出会いの機会については、千葉県身体障害者福祉協会が実施する「身体障害者の相談に応ずる事業」に対して補助を行っています。

当該事業の結婚相談において、結婚相談員が結婚に関する様々な相談や面接に応じるとともに、出会いの場を提供するほか、年2回関東甲信越静地区で開催される「近県交流会」などへの参加支援を行っています。(平成23年度末登録者数：62名)

・千葉県身体障害者福祉協会運営費補助(相談事業分)50千円

ケアホーム・グループホームにおいては事業者は余暇活動の支援等に努めなければならないとされており、また、入所施設においては地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めなければならない、とされており、その一環として出会いの機会の提供等が期待されるところです。

なお、県独自のグループホーム等支援ワーカーがコーディネートして、海匝、夷隅圏域等で事業所を超えた「利用者交流会」などを実施しています。

3. 入所施設・ケアホーム・在宅で暮らす、障害のある人(身障で障 区分6～5を対象)が、就労できる環境作りに向けて、各圏域ごとに、研究と環境の整備に取り組む。

(回答)

入所施設・ケアホーム・在宅で暮らす、障害のある人(身障で障 区分6～5を対象)が、就労できる環境作りについては、重点事業の

・就業者就業・生活支援センター事業 109,088千円

・就労支援ネットワーク強化・充実事業 16,000千円(新規事業)

として事業化されております。

就業者就業・生活支援センターについては、平成23年に障害福祉圏域ごとに1か所ずつ計16か所を整備することを目標としており(22年度現在で11か所)、障害のある人の一般就労の更なる促進を目指します。

また、障害のある人の就労支援を効果的に推進するため、障害者就業・生活支援センターが中心となって、ハローワーク、特別支援学校、就労移行支援事業者等により、各障害保健福祉県域における就労支援ネットワークを構築し、情報の共有化や各種研修等を実施していくこととしています。

1 平成23年度の重点事業について

- 一 前回の本部会で、「05 資料2 倉田委員提案資料 pdf (別紙)」を提案させて頂きました。反映をして頂いたものと、反映出来なかったものを具体的に教えてください。
- 二 反映出来なかったものについては、なぜ、出来なかったのか、今後どのように対応して行くのかを、具体的に教えてください。

2 第四次障害者計画の見直し計画案に入れて頂きもの(重複する内容もあり)

- 一 「05 資料2 倉田委員提案資料 pdf (別紙)」の内容を入れて頂きたい
- 二 グループホーム・ケアホーム、障害者支援施設の入居・入所系のものについて、現在あるものや、今後新設であったり、また運営面などに関しても、事業所主導でなく、企画の段階から、各地元の入居・入所対象(希望者・事業所(法人等)・地域住民(障害福祉に関わりが浅かったり無い人を主に)・外部専門家が対等な立場で、参画出来るようにし、企画・運営会議を設置させ定期的に開催する。そうすることにより、入居対象者が、より良く住みやすい環境となっていく。また、事業所(法人等)も入居・入所者と、心通じ合う、さらに良い関係作りを深められる環境が期待される。その内容を入れて頂きたい

平成22年8月3日 開催

千葉県自立支援協議会・第四次千葉県障害者

計画推進作業部会(第四本部会) 資料より

倉田委員提案資料

資料2

平成23年度の重点事業（案）

- 1 各圏域ごとに、身障の方(障害区分 6～5 を対象)が入居できる、ケアホーム「単身型(または防音居室)」の設置・整備。
 - 定員は5～10人で1～2箇所。
(整備・設置・運営などにあたっては、事業所主導でなく、企画の段階から、各地元の入居対象(希望)者の参画が出来るようにし、入居対象者の住みやすい環境を重視する。)
 - 補足(防音居室は単身型と同様な環境で暮らせる)
とくに一戸建住宅(その他も含め)の場合、隣などの入居者同士の音が聞こえる(様子なども含む)ため、防音居室にすることで、それらを防ぐ(来客者が来ても隣などを気にすることがなくなる)。
また入居者が深夜に帰宅する場合もあると思うので、各居室ごとに外へ自由に出入り可能にしておく(正面玄関から深夜出入りすることで、他の入居者などに迷惑をかけないため。また非常口の確保という意味も含む)
- 2 各圏域ごとの入所施設・ケアホーム・在宅で暮らす、障害のある人(身障で障害区分 6～5 を対象)と、ない人との仲間や友達など(異性・同性)作りのきっかけとして、定期的に出会いの場の機会を作る。
 - 補足
異性と同性の出会いの場は分ける。
(異性の場合、障害のある人同士であれば、出会いの場を行っている団体などは、見かけることはあっても、障害のある人、ない人との出会いの場を行う団体などは、聞いたことがないため、そのような場を作ること大切であると考え)
- 3 入所施設・ケアホーム・在宅で暮らす、障害のある人(身障で障害区分 6～5 を対象)が、就労できる環境作りに向けて、各圏域ごとに、研究と環境の整備に取り組む。